

令和5年度 第1回習志野市スポーツ推進審議会 会議録

1 開催日時 令和5年7月5日(水)午後4時00分～午後5時00分

2 開催場所 習志野市庁舎3階 大会議室 AB

3 出席者

【副会長】	習志野市スポーツ協会	副理事長	山口 一
【委員】	日本	大学教授	菊地 俊紀
	千葉工業	大学教授	引原 有輝
	東邦	大学准教授	澁川 賢一
	習志野市スポーツ協会	理事	吉見 知子
	袖ヶ浦東小学校	校長(小中学校体育連盟副会長)	瀬山 英樹
	習志野市政	策経営部部長	竹田 佳司

事務局

生涯学習部	部長	片岡 利江
生涯学習部	次長	芹澤 佐知子
生涯スポーツ課	課長	三橋 智
生涯学習部	主幹	高田 賢
生涯スポーツ課	副主査	中村 吉宏
生涯スポーツ課	主任主事	長束 友希央
生涯スポーツ課	主任主事	宮城 利奈
生涯スポーツ課	主任主事	森田 結芽
生涯スポーツ課	主事補	宮崎 紘

報告

- (1)令和4年度生涯スポーツ課主要事業報告
- (2)令和4年度事業評価について
- (3)スポーツ施設の次期指定管理者の更新と管理施設の料金改定について

協議

- (1)スポーツ・運動に関するアンケートの内容と実施方法について
- (2)その他

会議資料

- (1) 令和4年度 生涯スポーツ課主要事業報告
- (2) 令和4年度 事業評価集計
- (3) 習志野市スポーツ推進計画 評価シート
- (4) スポーツ施設の次期指定管理者の更新と管理施設の料金改定について(報告)
- (5) 令和6年度スポーツ・運動に関する市民アンケートの実施について

<議事内容>

第1. 会議録作成等

会議録については、要点筆記とし、会議名、会議日程、会議場所、出席者氏名、審議事項、会議内容、発言委員名及び所管課名を記載し、非公開の審議事項を除く記録について、市のホームページ及び市のグランドフロアにおいて公開する。

第2. 会議録署名委員の指名

菊地委員、竹田委員とする。

第3. 報告 (1) 令和4年度生涯スポーツ課主要事業報告

【三橋課長】：

新型コロナウイルス感染症の様子を見ながら、再開した1年だった。令和4年4月時点では、利用時間の制限等はないが、3密対策やマスクの着用といった感染防止策は引き続き行われ、前半は中止となったイベントもあった。以降、事業一覧から抜粋し報告を行う。

1番。スポーツ奨励大会は4事業実施。6月実施の歩け歩け大会は、信号による人の滞留ができないよう、海沿いの新しいコースを設定し、再開した。

2番。市民スポーツ指導員地区活動は、秋以降全地区で再開された。グランドゴルフやゴムバレー等に加え、フィンランド発祥のモルックを行う地区が増えた。

7番。スポーツ奨励金の交付は、全国大会等が再開され、大幅に増えた。大久保を拠点とする、CAC スポーツクラブ所属の新体操ジュニアチームが、日本代表としてアジア大会に出場し、団体ボールで金メダル、団体ロープで銀メダル、国別対抗で銅メダルを獲得した。

8番。スポーツ協会への支援を継続し行った。習志野市スポーツ協会加盟の31競技のうち、27種目で市民総合体育大会が実施されている。

11番。スポーツ施設の整備では、開設後10年を経過した芝園フットサル場の人工芝を、スポーツ振興くじ、通称 toto の助成を受け、全面張り替えを行った。

また、国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、暁風館の空間換気対策として網戸の設置を行った。

12番。みるスポーツの推進として、毎年秋に1試合オービックシーガールズのホームゲームを行っている。令和4年度は主催者の日本社会人アメリカンフットボール協会と協議し、

新習志野シリーズとして、オービックシーガルズの試合を含む5試合を、2週に渡り行った。この試合に合わせ、子供向けの遊具や屋台の出店、近隣商業施設の割引など、コラボ企画を新たに導入した。

5日間のイベントのうち4日が雨天であったため、思うような集客はできなかったが、試合以外でも楽しめるよう、今後も指定管理者や各主催者と検討を続ける、と令和4年度生涯スポーツ課主要事業報告について説明。

山口副会長が質疑なしと認め、報告事項(1)は終了した。

第3. 報告 (2)令和4年度事業評価について

【三橋課長】

報告2、習志野市スポーツ推進計画の令和4年度事業評価について、御報告申し上げます。この評価シートは、当審議会に報告した後、委員からの意見を各担当課へフィードバックし、今後の事業推進に活用する。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症感染防止策の制限が大きく緩和され、様々な事業が再開された。基準値を令和元年度とし、達成に向けた取り組み状況を評価した。また、前回同様、総括的に取り組み状況を見るため、令和3年度から令和4年度の経過で、各課の自己評価がわかるよう作成した。令和3年度よりも再開した事業が多く、実績値が改定されている。結果、A評価、B評価の事業が増加し、C評価と中止事業は減少した。ただし、上半期等は密対策により、人数制限をかけて再開した事業が多かった。詳細は、資料2の令和4年の事業評価と、令和3年度からの変化の状況及び各事業評価の成果と課題のコメント欄を御参照いただきたい。

昨年度、ご指摘のあった各事業における新型コロナの影響による目標値の見直しについては、各担当課と協議し、令和4年度の半ばから事業が再開しているため、見直す必要はないと判断した。

資料2中段、C評価から、評価が変わらなかった取り組みの理由と今後の見直しについて説明をする。評価が下がった取り組みについては、各課のコメントを記載しているが、生涯スポーツ課にて聴取した結果、いずれの事業も今年度は再開されているため、目標に向かって実績が上がっていくものと判断した。

会議後、各課内で課題を把握し、この取り組みが確実に推進されるよう周知する。今後、本市のさらなるスポーツの推進に向け、本会議にて意見を伺いたいと、令和4年度事業評価について説明。

【竹田委員】

評価シート7番のスポーツエキスパート推進事業について伺いたい。

学校部活動での専門者からの指導について、教員の働き方改革等が課題となっている中、部活動地域の移行の取り組み状況と今後の見直しについて教えてほしい、と発言。

【三橋課長】

本市の部活動の地域移行の現状について、現在、学校部活動を主管している教育委員会学校教育部指導課が中心となり取り組んでいる。

昨年10月に庁内及び各小学校中学校の校長会会長、小中学校体育連盟会長を加え

た検討委員会を立ち上げ、11月、1月、2月に3回会議を行い、令和5年5月から、先行実施している3校と外部指導員の募集要項を作成し、5月1日から地域指導員の募集を始めた。

国、県の作成した休日の部活動、運動部活動の地域移行のスケジュールでは、令和4年度に協議会を設置、令和5年度に各市町村で1部活以上を地域移行、令和6年度に全中学校で1部活以上を地域移行、令和7年度には今後のスケジュールを立てるということが示されており、今年度本市は3校で実施した。

具体的には、第一中学校女子バスケットボール部で、支援員として20年以上携わってこられた方が地域指導員となった。

第二中学校男女陸上競技部は、習志野市陸上競技協会から推薦された2名が地域指導員となった。

第七中学校男子バレーボール部は、以前から指導されている方が地域指導員となった。

なお、第三中学校と第七中学校は人数不足のため、今年度から合同チームとして活動しているとの報告を受けている。

今年度は、この先行実施している3校の状況から、課題の洗い出しと先進市の調査、次年度の実施に向けた準備をしていく予定となっている、と回答。

【山口副会長】

地域指導員を迎えた、学校、生徒の反応を伺いたい、と発言。

【三橋課長】

第一中学校、第七中学校の地域指導員は、以前から指導を行っているため、各学校も理解があり、専門的な指導が受けられるという意見がある。今年度から地域指導員を導入した第二中学校陸上競技は、保護者説明会にて、陸上競技協会からの推薦である旨を伝えたところ、好評だという報告を受けている、と回答。

【澁川委員】

4点質問がある。1点目は、7番スポーツエキスパート推進について。

予算の確保と運用方法が重要で、限られた報酬の中で、いかに有益な指導者を招くことができるかという、予算と人材の確保が課題だと考えている。

部活動の指導のみを担うプロフェッショナルの方を募るのは難しいと考えており、大学生や退職した教員を指導員とする方法等あるかと思うが、何か見通しがあれば伺いたい、と発言。

【三橋課長】

御認識のとおり、外部指導員の確保は課題として認識している。担当課より、次年度予算としての指導員への報酬は時給1,600円、休日は土日どちらか1日3時間と決め、年間の必要時間数を乗じて算出した額を、請求しているとの報告があった。

検討委員会では、今年度5月から、外部指導員の募集を公表したが応募がないため、今後スポーツ協会等へも周知していく、と回答。

【澁川委員】

2点目、スポーツにおける安全について伺いたい。

学校部活動は安全に楽しく行うことが1番だと考えているが、質の担保において、外部指導者への、バックアップや支援方法、安全対策や教育環境も含めてご検討いただきたい、と発言。

【三橋課長】

本件は検討委員会へ報告する、と回答。

【澁川委員】

3点目に、評価シート16番、令和2年度から実績値0回、決算2,000万円の子育て支援課の事業内容について伺いたい、と発言。

【中村副主査】

担当課より詳細な説明は伺っていない、記載のとおり、と回答。

【竹田委員】

本市の財政部門を所掌しているため、事業内容を補足する。

地域子育て支援拠点業とはこどもセンター等の親子が自由に遊び交流できる施設であり、拠点事業での人件費等の事業費として2,000万円前後計上しているものと思われる。

当該施設において、プレーパークは年に何回か計画をしているが、コロナ禍であったため、実施できず実績値は0回となっている。今年度すでに、1回開催されたようなので、徐々にその辺は、復活していくと考えている、と発言。

【澁川委員】

最後に、市の情報が市民へどのように一貫性を持って理解されているのか伺いたい。様々な担当課で色々な活動を行っているが、習志野市のスポーツ活動について全体の共通理解はされているのか疑問に思う、と発言。

【片岡部長】

習志野市のスポーツ推進は、「する」「みる」「支える」という三本柱をもとに計画しており、それぞれの担当課でこれに該当する事業を今回一覧として表にまとめた。

各課部分的には連携を取って進めている事業もあり、市民へホームページ等で発信をしているが、工夫することが必要だと考えている。昨今、デジタルが進みスマートフォンから情報を見ることができる。スポーツに取り組む方は高齢者のみならず、若い方が多いため、そういったツールを取り入れ、習志野市のスポーツ推進について発信する必要がある、と回答。

【三橋課長】

スポーツ課ではスポーツ関連の相談を受けている。例えば、ボッチャは障がい者向けスポーツとして行われており、用具の貸し出しを障がい福祉課と生涯スポーツ課で行ってい

たが、貸し出し先がわかりにくく、生涯スポーツ課での貸し出しに統一した結果、貸し出し件数が増加した。

また、高齢者向けの施策19や、あじさいクラブはあるが、高齢化が進む中で、新しいことへの取り組みづらさ、スポーツの指導に関する相談を受けている。これについては、本市の事業である市民スポーツ指導員、市民スポーツ推進員、総合型スポーツクラブと地域との連携を意識し取り組んでいくこととする、と回答。

【吉見委員】

澁川委員の意見と同じ疑問を持っている。コロナが収まっても、暫くは通常の活動はできないと思うが、用具の貸し出しについて今知ったので、市民へ広くわかるようにお伝えいただき、横の連携を取っていただきたい、と発言。

【菊地委員】

コロナに対する感染対策による、各取り組み、事業によって異なる報告となっている印象を受けた。一方では感染症対策によりイベントを中止しているが、もう一方では活動が活発になり参加者が増加しているという報告がある。開催時期や対象者によって報告を変えているのと思うが、統一感がないように思える。

もう1点、31番について。

市内で開催されるスポーツ大会の情報発信できるようホームページや、市、広報の充実を図るということで、令和3年度から令和4年度にかけて、ほぼ10倍となっており、A評価というのは理解できる。しかし、以前との正確な比較をすることができないという記載により、ネガティブな報告であるように思えるので、表現方法を変えた方が良いと感じた。

また、令和5年度以降の目標値を上方修正するという事も検討していただきたい。

同様の指摘が34番に対してもある。目標値に対して支援回数が多い報告になっている。活動支援回数12回目標に対して、活動支援対策時実績値が54回。これも素晴らしいことだが、上方修正の可能性はないのか、またなぜこんなに目標値を上回ったのかという理由を伺いたい、と発言。

【三橋課長】

担当課へ確認させていただく、と回答。

山口副会長が他に質疑なしと認め、報告事項(2)は終了した。

第3. 報告 (3)スポーツ施設の次期指定管理者の変更と管理施設の料金改定について

【三橋課長】

報告事項3、スポーツ施設の次期指定管理者の変更と管理施設の料金改定について御報告申し上げます。本市のスポーツ施設は、平成18年度より指定管理者制度を導入しており、現在はその4期目の最終年度となる。次期の指定管理者を設定するにあたり、本年2月、習志野市経営改革推進本部会議にて、指定管理者制度による運営を継続すること、選定については公募によること、指定管理期間は5年とし、現在と同じ9施設を対象施設とすることが決定され、本年7月1日より、次期指定管理者の募集を開始した。

更新にあたって、本市では、使用料手数料を3年ごとに見直しているが、指定管理者制度を導入し、かつ、利用料金制をとっている施設については、その指定管理者の更新に合わせて利用料金の改定を行うこととしており、先月6月に行われた令和5年第2回定例会において、料金改定の議案が可決された。改訂された料金は、裏面のとおり。

今後のスケジュールは、次回のスポーツ推進審議会にて、候補者の選定について御報告し、その後市議会にて、新しい指定管理の事業者が決定する運びとなる、と説明。

【澁川委員】

使用料一覧表の、東部体育館クライミングウォールの利用料について、150円という記載は、体育館の4分の1面の使用料に上乗せされるという認識で良いかと、発言

【宮城主任主事】

御認識のとおり。資料に記載をしていないが、体育館の個人の使用料とクライミングウォールの使用料を合わせてお支払いいただくこととなる、と回答。

【澁川委員】

一般のクライミングジムでは、1時間当たり1,000円程度の料金となっており、大学にあるクライミングウォールも、維持管理以外にメンテナンス料がかかる認識があるため、1回あたり150円は妥当なのか伺いたい、と発言。

【片岡部長】

安価であると思うが、本市では料金を値上げする場合、1.5倍までという規則がある、と回答。

【澁川委員】

問題がなければ良い、と発言。

山口副会長が他に質疑なしと認め、報告事項(3)は終了した。

協議事項(1)スポーツ運動に関する市民アンケートの内容と実施方法について

【中村副主査】

令和6年度スポーツ運動に関する市民アンケートの実施についてと、スポーツ運動に関する市民アンケートについて、実施方法と、アンケート内容についての御意見をお聞かせ願う。

資料1ページ、令和6年度スポーツ運動に関する市民アンケートの実施について。目的は記載のとおり、令和8年度から6か年計画でスタートする習志野市スポーツ推進計画策定の、基礎資料とするために実施する。

調査対象者は体育の授業や部活動が日常的である高校生を省くため、19歳以上の市民3,000名とする。

調査期間は、令和6年の6月3日から6月28日。調査方法は、郵送による配布回収及びWEB回答を予定している。抽出方法は、習志野市住民基本台帳から、表のとおり、性別、

年齢、地区。

調査項目については、表のとおり。本市スポーツ推進計画のするスポーツ、みるスポーツ、支えるスポーツの三つの柱の観点で、それぞれの設問質問を設けた。

平成30年度に行ったアンケート結果から、計画の目標を設定していることや、経年変化を見ることができるよう、調査項目について、大幅な変更はしておらず、主な変更点は以下のとおり。

アンケート2ページ質問3では、市内でも多く取り組まれるようになっている、ラグビー、モルック、ポッチャを追加。

6ページ質問20、東京2020オリンピックパラリンピックは、平成30年の時のアンケートで観戦したいかどうかを調査したため、その後の調査として残した。新型コロナウイルス感染症による影響で、ほぼすべての会場で向け無観客の実施となったが、大きい大会であれば、スタジアムで観戦する方が多くいるのかどうかを問う意図があったため、本項目については削除、あるいは見るスポーツの柱に組み込んでオリンピックを見たかどうかを問い、見た市民は、種目や場所、各方法について、回答を求めていくかについて、ご意見をいただきたい。

本日いただいたご意見を反映し、次回審議会でアンケート改訂版を提示する、と説明。

【引原委員】

平成30年のアンケート回収率について伺いたい、と発言。

【事務局】

回収率は約30%、約1,000名から回答をいただいた、と回答。

【引原委員】

対象者が19歳以上から60代までであるため回答者に偏りがあり、紙ベースでの回答が中心だったのではないかと考える。WEB回答で対応した方が若い世代の回収率が上がると思うので検討いただきたい。

また、対象者を3,000名とし、回収率30%という実績は、当初目標として想定した上での、全体数、母集団ということで良いか伺いたい、と発言。

【中村副主査】

平成30年度に行った際も審議会でも同意見をいただいた。1,000名程度集まらないと、正式な正確な数値とは言えないとの意見があったため今回も同様の数値とした。

WEBを使った回答方法については、検討させていただく、と回答。

【菊地委員】

回答者、男性1,500名、女性1,500名を対象としており、各年代同数としているが、母集団の違いが大きく影響すると考えるため、人口構成について伺いたい、と発言。

【片岡部長】

人口構成的に高齢者の方が多くなっている。各年代の回収率が同数となる方が良いのか、検討部分である。他部署でも、アンケートを実施しているため、抽出方法等アンケート

を実施する際は参考とし、満遍なく意見を拾いたいと考えている、と回答。

【菊地委員】

3ページの質問6について伺う。

情報を得るためのツールとしてあげられている3つについて、現状利用があるのか考慮し、再度検討いただきたい、と発言。

【山口副会長】

2020オリンピックパラリンピックについての項目を削除するか、「みる」に入れて、組み込むかご意見いただきたい、と発言。

【澁川委員】

削除でよいと考える。

「みる」を調査することが、習志野市のスポーツ推進にどのように反映されるのかが見えにくい。また、来年実施するアンケートであるため、3年前の話しを活かすための回答方法があるならば残してよいと思う、と発言。

【引原委員】

質問20を削除すると、2020オリンピックと習志野市民との関わり方について情報はないのか。あるのであれば、残す必要はないが、スポーツのビッグイベントに対して、どれぐらいの市民が動いたのか情報がないのであれば残した方がいい、と発言。

【片岡部長】

このような調査をした実績はおそらくないと思う、と回答。

【引原委員】

親族が出ている大会であれば観戦するケースはあると思うが、2020オリンピックほど大きな大会となると無関心層も、観戦している可能性があるため、データは押さえておいた方がいい。データがないのであれば、この設問は残した方がいいのではないかと考える、と発言。

【山口副会長】

ご意見は次回までに検討いただき、アンケート実施に向けて事業に取り組んでいただきたい、と発言。

山口副会長が他に質疑なしと認め、協議事項(1)は終了した。

【その他】

次回は令和5年11月8日を予定。

【閉会】

山口副会長が令和5年度第1回習志野市スポーツ推進審議会の閉会を宣言。